

# Try & Challenge

## 越谷の YES, WE CAN.

2019年元旦

本年4月の統一地方選挙は、地域の困りごとを市民自身が当事者意識をもち、共通の課題として、自分事として受け止めるためのリーダー選びの舞台です。

しかもその困りごとを解決するために、仲間と共に意見や立場の違いを認めながら、合意形成をはかっていく新たな社会的担い手を作りだしていくチャンスでもあります。選挙の審判者としての判断基準を深める様々な論議に参加しながら、当事者性を高めていきましょう。

### 市民活動を通して考える「地域の人間」の意識

今年参加した研修会や会議などで記憶に残った言葉は「地域との連携をすすめる」であった。地域に開かれた学校、地域とともに発展する企業、行政が主体となって進める市民参画。様々な方面で同一の言葉を耳にした。しかし、連携した結果についての明確なビジョンが語られることは少なかったように思われる。

今、地元ではまちかどでイベントが開催され、市の主催する講演会には大勢が参加し、学生によるボランティア清掃などもよく見かける。楽しいし華やかで活気はあるのだが、私にはそれが個々の「点」にしか見えない。つながらないし、広がらないのだ。人や団体同士が出会い、協力し合うことで新しい取り組みが連鎖的に起こるといった動きはないのである。おそらくそれは「なぜ自分たちが活動しているのか」についての話し合いが徹底されていないからだ。そして、とても「急いで」形にしようとしているように感じる。やみくもに実績作りをしているうちは、点は線にならないのだろう。

市民活動にとって大切なことは「焦らない」ことだと思う。もちろん計画は必要だが、数回で結果が出るものは廃れるのも早い。自分たちが必要だと思ふことを「活動」という形にするだけでは足りない。その活動が継続されるにはどうしたらよいか。自分たちがいなくなつた後の地域の事まで考えて計画を練れば、自ずとそれが単一の組織だけでは不可能なことが分かってくる。そこで初めて「連携」の必要性が生

まれるのだ。動員数や参加率といった目先の事だけでなく、遠い未来でも自分の地域が輝いていられるために今自分ができることを考えられるよう、地域に関わるすべての人間は自らの意識を変えていく必要があると思う。

一般社団法人 *street* サポーターズ

代表理事 吉田理子

### マンションのふれあい活動に参加して

自分の住んでいるマンションで毎月 ふれあいサロン会が行われています。

ふれあいランチ会、ふれあい麻雀同好会、ふれあい囲碁、将棋クラブ、ふれあい女性コーラス部、ふれあい折り紙と和菓子の会、グリーンクラブもあり外の芝生や庭木の剪定なども行います。今高齢社会で一人住まいの方や 年配の夫妻などが多く、少しでも皆さんとふれあうことが大事だと思います。自分の担当は、折り紙と和菓子の会で、毎月第4木曜日の午後1時から折り紙を30分して和菓子を手の空いた人たちに手伝ってもらい、手作りして1時間ほどで、お茶と菓子で楽しみます。このマンションでは 有志の人たちでいろいろのサービスをしています。ゴミ出し、粗大ゴミの運搬、不要品処分、包丁とぎ、蛍光灯の取り替え、部屋の片付け、などふれあいサービスで 連絡があれば 利用できます。

よその業者ですとそれなりの経費もかかるが この自治会の皆さんの協力があつて、少ない経費でサービスを受ける事ができるのです。

行政のサービスを待っているだけではなかなかサービスを受けるのに時間がかかりますね。

菓子職人 下間久里在住 白石

## 政治を人ごとから自分ごとへ

こんにちは。松戸市議会議員の中西香澄です。

私にとって人ごとだった政治が自分事になった大きなきっかけは昨年起きた小学生女子誘拐殺人事件でした。日本中を震撼させた凶悪事件が自分の住む街で起きてしまった。そして、その後全く進まない街の防犯対策、このままではまたどこで同じ犯罪が起きてもおかしくない。

ちょうどPTAの役員もやっていたので学校や地域とも活動してきましたが、その限界を感じた時、見えてきたのが行政に直接働きかける事でした。このままでは安心して子どもたちを育てることができないという危機感と、一向に進まない安全対策への疑問から市議会に関心を持ち始めると、市民の声が届いていない原因の根っこが市民の方を向いていない行政と議会にあることがわかりました。子どもたちが希望をもって成長できる街にするには根っこから変えていかなければと立候補する決心が固まっていきました。

私は自分のことを「普通の主婦」だと思っています。そして、私と一緒に活動してくれたのは素晴らしい「普通の人」たちでした。大きな組織も政党

もありません。先輩として山中議員からの応援をいただきましたが、すべて手作りで行ってきた選挙でした。

他候補のプロのアナウンスが街中から聞こえる中、自分で、家族で、友人でマイクを回す。慣れないマイクで私の名前を言ってくれる友人。人前に立つだけでドキドキしていたのに一緒に駅前に立つてくれる、一緒にくたくたになるまで歩いてくれるママ友。その思いが「私」を応援する事から「自分たちの街を良くしたい」思いになった実感を得られた時が一番うれしかったです。

「普通の私」が立ったことで「普通の人」たちに「このままではいけない」「行政にかかわることで街を変えていけるのだ」という思いが広がりました。これは「私」ではなくて「仲間」たち、そして「市民」の力です。政治は特別なことではなく、当たり前のこと。



普通の関わりを広げていくことが、なによりも市民からのチェック機能を働かせ、市民の力を生かし、結果、市民のための街づくりが行われます。

「普通」であることを一番の武器として、始まった議員としての務めを全力で果たします。

本年十一月初当選

松戸市議会議員 中西香澄

## 身近なことから声にしていく

白岡市に家を建て、生活の基盤として十八年が過ぎました。夢中で子育てをしていた時期には子どもや学校を介して母親たちも横につながり、話題は子どもに関することがほとんどでした。その子どもたちが大学生となり、ここに住みながらも彼女たちの生活基盤はもはや白岡にはない今、私個人としての思いや考えを発信していくことが増えたのは自然なことです。政治に不安を感じたことから自分なりに足を運び学んだこと、仕事や市民活動から見えてきたこと、さて、これらを人に伝えようとするとなかなか難しいものです。そして「思いを伝える」難しさは誰もが感じていることではないかと思うのです。

今、住んでいる地域で不便さや困りごとを抱えている人はたくさんいるはず。自分なりに提案したい、要求したいと思っていることもあるけれど、否定されないか、反論されないかと臆してしまい言葉を呑み込んでしまうのではありませんか。「自己責任」で今のあなたの暮らしがある、なんて言われてしまつたら、困りごとを相談する道も閉ざされてしまいます。

来年四月に迎える統一選挙では、自説のみに固執するのではなく、対立する意見にも耳を傾け、社会の変化に高いアンテナを持ち自ら学ぶ姿勢の人を選びたい。

住民の声をひろいあげ、政治に反映させられる人を選びたい。そのためには私たち市民も自分で学び、考え、言葉にすることを体得しなくてはならないのです。市民が沈黙した町には未来はないのですから。

白岡市在住 片山玲子

